

ハイライト

インド政府は融資増加の復活を求め、国営金融機関は320億米ドル程度までの資本注入を受ける予定。政府は207.7億米ドルの資本増強債券を販売する一方で、銀行は「予算支援」と株式発行により、更に112.3億米ドルの資金を調達します。2009年に政府が以前公約した額よりも10倍以上多い、前例のない額は、銀行の資本比率を改善し、アジア第3位の経済大国の融資増加を復活するのに役立つでしょう。公的銀行部門への政府による資本増強計画は、銀行貸し出しの増加を最大700ベーシスポイントから15%まで促進し、その結果として、次の会計年度のGDP値を7%まで押し上げる可能性があります。(出典: Ambit Capital, Bloomberg)

インドのビジネス環境



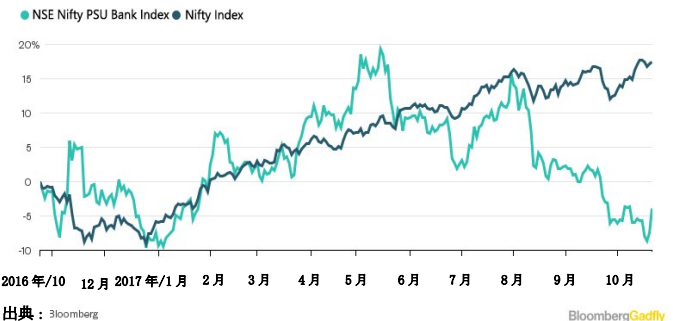
インドは、世界銀行の2018年ビジネス環境ランキングで世界の190カ国中100位にランクされ、前年よりも30位上昇した。

世界銀行はまた、ビジネス環境を改革するインド政府の深い関与を理由に挙げて、ビジネス環境により評価した、この地域で最も進んだ上位10カ国の1つにインドを指名しました。顕著な改善は、建設許可、信用の獲得、少数投資家の保護、納税、国際貿易、破産処理に対して、改革が実施された分野や規制が緩和された分野に見られます。(出典: 世界銀行)

国内投資家は引き続き預金から株式ファンドへ資金をシフトさせており、それによりアジア第2位の高成績を挙げる株式市場となっており、10月度は19カ月連続となる驚異的な25億米ドルがインド株式市場へ投資された。インド政府が推進する年金資金の株式への投資は、その流れを更に増加させると予想されます。(出典: AMFI, Bloomberg)

新たな局面か？

貸し出し増加を刺激するための銀行への注入は株式市場を



ナレンドラ モディ政権による国有銀行への資本増強策の発表により、国有銀行の PSU インデックスは1日で30%上昇し、その時価総額は約170億米ドル増加。これは2017年2月に11億米ドル相当の株式が取引されたとき以来、1日で最大の外国直接投資の流入でした。インドの株式市場は、全体で約2兆2000億米ドルの時価総額があります。(出典: Bloomberg)

インド準備銀行の10月会合議事録から、全体的に中立的スタンスを維持しながらも、金融政策委員会にタカ派的なバイアスがあることが明らかになった。インフレ見通しへの上方リスクへの懸念と産出ギャップを近づけるために構造改革と財政規律が必要とのコンセンサスは、次回会合での何らかの利下げの可能性を更に低下させました。RBIメンバーのマイケル パトラ氏のように、収益を浮揚させるために、直ちにインフレ圧力を抑制する金利上昇が必要だとの意見が見られました。(出典: RBI, Bloomberg)

世界第2位の小麦生産国、インドは農家収入の増加と生産高の向上を期待して、最少購入価格を6.8%値上げし、過去6年間で最大の上昇となる。同国で単独で最大の食糧作物購入者である連邦政府はまた、ひよこ豆、レンズ豆、マスタードなど主要穀物への支払い価格の値上げを実施しました。11月に実施される主要な州での選挙を目前にしたこの動きは、13億人の人口のうち70%以上が農業で生計を支えているインド国内で、ナレンドラ モディ首相の人気を押し上げるのに役立つでしょう。(出典: Bloomberg)

重要情報

この報告書は株式やユニットのオファーの性質を持つものではなく、意見や広告の提案や提示でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起り得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、アドバイスを求めてください。

当社がお客様の投資問題を解決するうえで役に立てる方法について詳しくお知りになりたい場合には UTI 投資担当者にお問い合わせ頂くか、www.utifunds.com をご覧ください。